



第84号

発行日

2016年3月1日

発行

茅ヶ崎市立小和田公民館

茅ヶ崎市美住町6番20号

(TEL 0467-85-8755)

(FAX 0467-85-8788)

mail:kou_kowada@city.

chigasaki.kanagawa.jp



おもしろ空間 レタス収穫体験



日本の歳越し 餅つき大会



こわだ音楽祭 女声コーラス



日本の歳越し しめ縄づくり

◎内 容

- ★ 夏休み子ども自然体験「子ども樹木博士」
- ★ 火山学者と火山を作ろう
- ★ デジカメ写真入門「思いが伝わる写真の撮り方講座」
- ★ 平成27年度「子育て支援講座～日光東照宮に秘められた家康からのメッセージを探る」
- ★ ちびっこ広場
- ★ 子どもの広場
- ★ 公民館のぞきみ隊「すずめ会」
- ★ 公運審だより
- ★ 「茅ヶ崎の社会教育を考える会」
- ★ 職員紹介、編集後記

子ども樹木博士

ってどんな博士？

こどもじゅもくはかせ



平成 27 年 8 月 11 日（火）10 時～12 時
～夏休みこども自然体験～

日本大学藤沢キャンパスにて、小・中学生を対象とした『子ども樹木博士』が催されました。

講師は、日本大学 生物資源科学部 環境教育ボランティアの会キヲラの皆さんです。

子ども樹木博士とは

子どもを中心に多くの人々が樹木の名前を識別できるようになり、これをきっかけとして森林に親しんでもらうことを目的としたボランティア活動の一つのプログラムです。

樹木の識別テストの結果、樹木の正解数により判定します。判定が終了したら、一人ひとりに認定書が授与されます。

（一般社団法人全国森林レクリエーション協会
子ども樹木博士認定活動推進協議会 HP より抜粋）



藤沢キャンパスは、東京ドーム12個分の広さがあり、緑あふれるキャンパスには、樹木園も備えています。



1. キャンパス内の博物館前に集合し、受付後に教室に移動。
当日のスケジュールと内容を聞きます。



参加人数

小学生	28 名
中学生	1 名
保護者	25 名
未就学児	7 名
合計	61 名



2. 班別に分かれて屋外にでます。



学年ごとに班分けし、樹木に詳しいインストラクターのお兄さん、お姉さんと樹木園やキャンパスを回ります。

最高段位は40種類以上を判別しますが、今回は1時間以内で、低学年班は6種類、高学年班は12種類の樹木を覚えることが目標です。

森に行く前に、虫よけをしたり長袖を羽織ったりして予防します。

暑くて具合が悪くなった時に休憩できるようにと、涼しい教室を用意してくれるなどの、細やかな対策もされていました。

3. 樹木園を散策しながら葉の特徴を学びます。



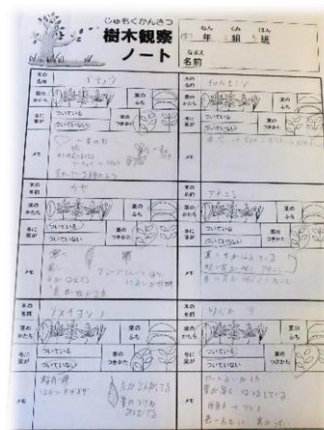
実際に葉っぱを観察し、触ったり匂いを嗅いだり名前の由来を聞いたりしながら、葉の特徴を専用のノートに書き込んでいきます。班の全員にわかるように、丁寧に、反応をみながら進められていました。

4. 樹木散策後の休憩タイムで葉の特徴をおさらいします。



どんな特徴
だったかな？

特徴を書き込みやすい
樹木観察ノート→



記入した専用のノートを見ながら、樹木を暗記します。
一度に12種類を覚えるのはなかなか大変です。

5. いざ！ 子ども樹木博士認定実力テスト

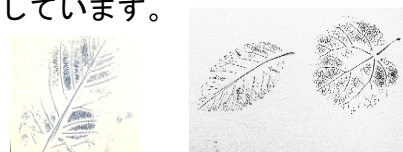


①～⑫までの札が付いた葉を観察し、樹木の名前を回答用紙に書き込みます。
一緒に回ったお兄さんお姉さんが優しく見守ってくれています。
①番の答えはツバキです。

6. 答え合わせを待つ間は、お楽しみ企画『葉脈スタンプでオリジナル葉書作り』



葉脈できれいな葉型が浮かびあがりました。どの子も夢中でスタンプをしています。



7. 認定証が授与されます。



全国統一の基準で採点します。

1種類正解は10級

2種類正解は9級

3種類正解は8級

：

11～19種類は初段

一人ひとりに授与、奨励されました。



12種類全問正解の初段の賞状。
おめでとう～。

今回の講座はいかがでした・・・？

日本大学環境教育
ボランティアの会材う 代表者

皆さんに楽しんで頂けたようで、とても嬉しく思っています。
これを機会に、もっと身近な自然に目を向けて親しんでもらいたいと思います。

参加者 小6年男子

いろいろな葉っぱがあって、全部覚えるのが大変だった。
説明は面白かったけど、テストは難しかった。メモをまとめて夏休みの自由研究にしたいと思う。

参加者 中3女子

一番印象に残った葉は、ウバメガシです。名前にひかれました。あとは、グレープフルーツの香りがするカヤの葉にもびっくりしました。
最後のテストは全問正解できたので嬉しかったです。

参加者の皆様、取材にご協力いただきありがとうございました。子どもたちは大学生の方々と楽しくお話ししながら、葉の特徴から樹木の名前を識別できるようになることで森林の自然に触れることができたと思います。

(平野 久美子)

火山学者と火山を作ろう

日 時 平成27年8月4日（火）
13:00～15:00
講 師 笠間 友博氏（神奈川県立生命の星・
地球博物館学芸員）
参加者 小学生3年生から中学生まで34名

青いビニールシートの上に、8台の実験台が用意されている。ゴーグル・エプロン・マスク・軍手などに身を固めた生徒たちが、神妙にそれを囲む。



講師から、富士山の噴火（山頂噴火は2200年間もなく江戸時代に山腹から噴火。火山灰は15センチほど積もる）の話があり、早速、実験の説明に入る。目標は5センチの「富士山」である。



※ 材料 凝固剤入り廃油(溶岩)・色砂(火山灰)

- 1 実験台の裏側の穴から廃油の入った容器を押す。押し上げられた廃油は、ゆっくりと四方へ流れ落ちる。本物そっくりなのでみんな感動！



- 2 砂の容器を交換し、エアダスターを差し込み押す。圧力の強弱で、砂の噴き上げ方が変わる。
- 3 再び廃油と交換して溶岩を作成、砂の色を違えて噴火。これを繰り返す。



- 4 時折、金属棒で穴のつまりを掃除する。
- 5 最後に、ナイフで真半分にして断層を観察し、用紙に描き止めた。作品は話し合いのうえ持ち帰る。



「保護者の見学可」なので、何人かの大人が周囲の椅子に腰掛けていた。が、歓声上がるにつれて、みんなが実験台を取り囲み、ともに楽しむ様子がすばらしい。



地球の内部にひそむ膨大なエネルギーに、改めて畏敬の念を感じたひとときであった。

（青木 君子）

平成 27 年 10 月 1 日 ・ 8 日 (木) 10 時～12 時



『デジカメ写真入門』

～思いが伝わる写真の撮り方講座～

講 師 : 絆フォトグラファー 福井小百合先生

参加数 : 34 人



申し込み開始から予約の電話が殺到し、30 分で予約が埋まってしまった大人気のデジカメ講座。
講師は、笑顔の素敵な福井小百合先生です。

第一回 10 月 1 日 (木)
講義「基本操作と構図を学ぶ」
実践「室内にて対象物の撮影」

デジカメはシャッターを押せば、誰でも簡単に写真を撮ることができます。でも、デジカメの設定を変えて、プロのような素敵な写真を撮影するのは、とても難しいことです。

一回目の講座では、デジカメ設定の 3 つの基本ポイントである、「ピント」「明るさと色味」「構図」を学び、実際にカメラの設定を変えて撮影の練習をしました。



先生の素敵な写真を参考に 3 つのポイントを学びます。

何度でも撮り直しが
出来るのがデジカメ
のよさ。
いろいろ設定を変えて
撮影をし、たくさん
練習をしましょう。



福井小百合先生より

写真に背景の空気感や、撮影者の思いが感じられる写真は、とても魅力的です。

明るさやぼかし等のテクニックを使って、より思いが伝わる写真が撮れるようになると、撮影がもっと楽しくなりますよ。



一人ずつ前にて写真を発表します。



ディスカッションをしながら小物の撮影もしました。



福井先生が「その時の思いや時間を残せる、写真はとても大切な存在です」と、おっしゃっていたのですが、本当にそうだなと思いました。

(平野 久美子)

平成27年度「子育て支援講座」

～日光東照宮に秘められた家康からのメッセージを探る～

日 時： 平成27年9月11日（金） 10:00～12:00

講 師： 鴨志田聡氏（前 松浪小学校教頭）

共 催： 松浪小学校区青少年育成推進協議会、松浪小学校PTA

参加者： 41名



「人間としてよりよく生きたい ともに語り合える仲間がほしい。
子育て中でも、いえ 子育て中だからこそ学びたい」 植村真弓

『公民館だより 小和田』第1号（1983年9月発行・実習作品）より

1. 「学びたい」を「支援」する

開館当初から、大人の学びのための講座として、教育講座があった。回を重ねるにつれて“子育て”講座が増え、2005（平成17）年から、「子育て支援」に替わった。「子どもを育てながら私も育ちたい」（開館当初の教育講座で佐伯昌子さん）との思いが、今日まで脈々と続いている。

2. 神君家康、その名は東照大権現（講座そのⅠ）

鴨志田先生は右図を示しながら「日光東照宮の先に北極星がある。北極星は天帝と呼ばれ宇宙の中心、宇宙を支配する存在である、つまり、東照宮に祭られた家康は天帝と一体化して天下人になった」と説明された。

さらに、「家康の最初の墓・久能山は誕生地・岡崎とは直線で結ばれ、その先に京都がある。また、久能山から日光への線は富士山（不死山）の真上を通る。つまり、家康は朝廷から“お墨付き”をもらい、不死なる存在（神）として東照大権現と呼ばれた」と、物差しで示しながら説明された。

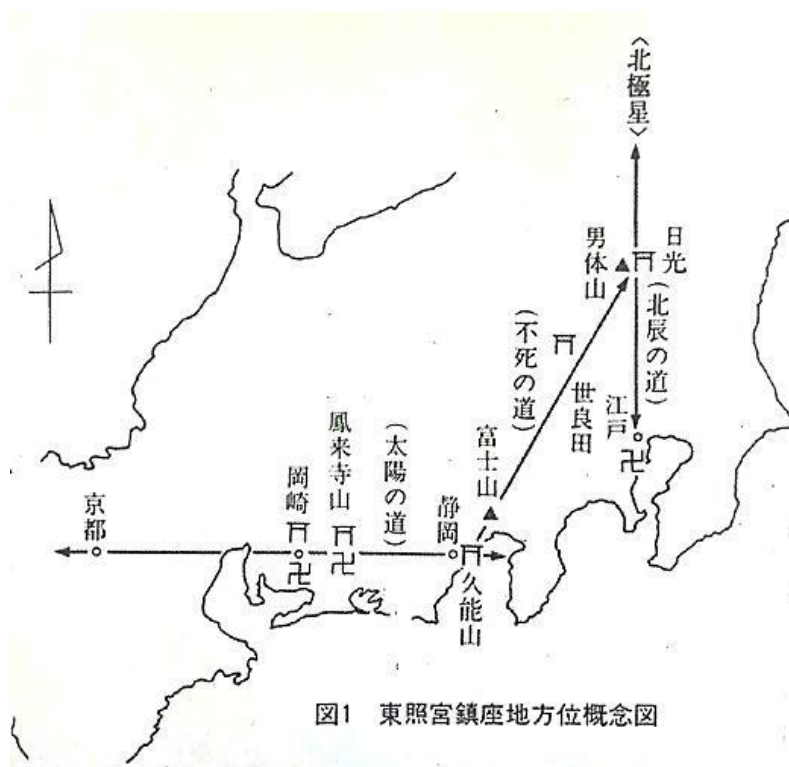


図1 東照宮鎮座地方位概念図

3. 日光東照宮は平和のシンボル（講座そのⅡ）

「日光東照宮には5 1 7 3 体もの彫刻があり、それぞれに意味がある」という。

- 麒麟（きりん）と白沢（はくたく）は拝殿の将軍着座の左右にある。狩野探幽作
 - ①「麒麟」：中国で想像上の動物。有徳な王者の治世に現れ、争いのある時代には姿を隠すという。
 - ②「白沢」：中国で想像上の霊獣。有徳な王者の治世に現れ、人の話をよく聞いてくれるという。
 - ①②の意味：家康は徳のある人物で世の中の争いを収め、人々の忠告をよく聞き、自分の政治に過ちがあればこれを改めた、ということの意味する。
- 「猫にすずめ」：猫のそばで、すずめが遊んでいる。これは、家康は人々が安心して暮らせる世の中にした、という意味。
- 「舜帝、朝見の儀」：舜帝は中国古代の名君。人々から望まれて皇帝になった。家康も舜帝と同じように、皆から望まれて将軍の地位についた、という意味。

4. 茅ヶ崎の小学生は丹念によく見て回る

今回の講座では、「小学校6年生を対象に行われた、日光修学旅行の事前授業と同じ内容のものを、地区の大人たちが公民館で聴く」という催しである。

鴨志田先生は「知っているのと知らないで行くのとでは、現地での行動は全く違う！」「茅ヶ崎の小学生は丹念によく見て回る」と、講座の目的とその効果を語られた。お話は1枚の大きなポスターから始まった。下の方から巻き上げてあるポスターを、上の方から出し惜しみするかのように、下の方にゆっくりと戻す。何かが現れる度に発する児童の反応を再現しながら、同じ問いかけを参加者にも行う。その手法は実に見事であった。参加者は引き込まれるように聞き入った。

5. 日光へ行ってみたいくなりました（「アンケート」より）

参加者の多くは子育て中のお母さん方。修学旅行の事前のお話なので6年生の親が多く、未就学児を含めて5年生以下の子どもの親も多数参加した。「昨年の教頭先生の日光に触れた内容が面白くて」「先生の授業が楽しいとの評判を聞いて」と、参加した人も。なかには「エジプトのアブ・シンベル大神殿は光を入れる壮大なものでしたが、東照宮はそれ以上」と、絶賛を惜しなかった人も。

講座はとても楽しい学びの時間であった。そして、「日光へ行ってみたいになった」と参加者の多くが「アンケート」に書いた。今回の講座を軸に「子どもと同じ目線で話題が共有」される場面が、家族の団欒のなかに生まれていくのではないだろうか。

（佐々木 勝治）

ちびっこ広場

この事業は、子どもの広場を企画した時に未就学児までの乳児・幼児を対象に始めたものです。今では、毎回百人近い参加者があり、公民館主催事業でも重要な役割をもっているといえます。

毎月1回開催されていますが、今回は、10月14日に取材させていただきました。

10時が開始時間、でもノンビリとゆる～く、あれれ？ もう始まっているのかな……。

お母さんたちのおしゃべりは止まりません。初めの15分は、くつろぎタイム。音楽に合わせて手遊びをしたり、大八木先生とお話したり。

「それではちびっこ広場をはじめます」の担当者の掛け声でみんなは講義室の真ん中に集まりました。



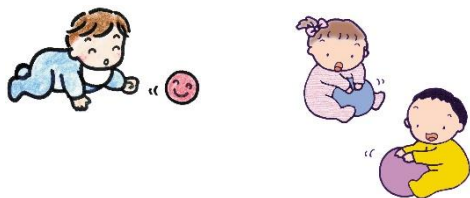
ミニ運動会



パネルシアター

この日の担当は「なのはなサークル」です。ミニ運動会として、ビニールテープの飾りの下や布のトンネルなどをくぐり、最後に新聞紙で作ったボールを箱に入れて完走。

次に、公民館主催事業で行われている「公民館お掃除隊」のメンバー15人がちびっこたちのためにパネルシアターを披露しました。題は「だいくのきつつきさん」歌に合わせて踊りも披露。緊張していたようですが、一生懸命練習した成果はバッチリ！ ちびっこたちは大喜びです。



さて、ここからの時間はちびっこ広場の強力な協力者が登場します。

山崎裕子さんが大八木先生とサンサン体操を行います。実は山崎さんも公民館の子育てサークル出身。元幼稚園教諭ということもあり、協力者の仲間入りをしました。

その月が誕生日の子どものために参加者全員で「パッピーバースデイトゥユー」を歌ってお祝いします。

みんなで歌おうのコーナーでは、曹陽子さんの伴奏と中村法子さんの歌に合わせ、「やまびこ」「むすんでひらいて」「大きな栗の木の下で」を歌いました。中村法子さんの素敵な声、曹陽子さんのその場に合せて即興でなんでも演奏してしまうことに、取材をしながら驚きました。

さてさて、大八木先生の出番。エ？ 大八木先生って誰？ 元幼稚園教諭、お年は……内緒にしておきましょうね。子どもたちが幸せいっぱい成長しますようにと願い、子育て中のママを応援してくれています。

小和田公民館には4つの子育てサークルがあります。毎回担当してくれるサークルは変わります。今回の「なのはなサークル」さんに少しお話を伺いました。「今度はなにをしようかな～。みんなは喜んでくれるかな～」こんな思いで企画しています。「終わった後の達成感は特別！」みなさん、楽しそうでしたよ。

担当の加藤職員は、「子育て中のママは素敵！ 親が子どもと一緒にいられる期間はとても短い。親子でふれあい遊びをしているのを見ると、とても貴重な時間を過ごしているなあ～。これからも気軽に遊びに来てもらえるよう内容を充実させていきたい」と語っていました。

取材を終えて

けいちゃん（2歳4か月）



講義室に入るとすぐに靴を脱ぎ、キチンと揃えて置きました。ママが教えているんだなあ～と微笑ましい一コマでした。

（川田 昌子）

子どもの広場



小和田公民館定例事業としてもう30年以上続いています。毎月第1土曜日に開催されていましたが、近年は主催事業が増えたりと、様々な事情により開催日は月ごとに変わっています。

この広場は「見ること、聞くこと、作ること」をテーマに子どもたちのふれあいと地域での仲間づくりをねらいとした自由参加の広場です。

10月17日、この日はハロウィン工作として「カラフルおばけライト」を作りました。この日の協力団体は、「工作会」さんです。

参加者は28人。保護者が9人も協力してくれました。

まず初めに、「今日作るのはこれだよ～」と見本を見せてから、必要な材料を取りに行きます。



作り方を見ながら、口頭でも丁寧に説明していました。説明が終わると早速作業開始。

空きビンにナプキンを張る。その上に黒い紙で形を切り取った紙を張る。張るのはどんな形のものでも良い。ある子はお化けだったり、カボチャだったり、コウモリやなんだか……？ みたいなものを張っている子もいる。ナプキンを張ってからビンの大きさに切る子、ビンの大きさに合わせて切ってから張る子と、作り方通りでなくても大丈夫！ 最後にビンの中にライトを入れて完成。

作っている子どもたちにインタビューしました。

「つくってみてどうだった？」の問いかけに「ナプキンがフニャフニャして、はるのが大変だった」「絵をかくのはあまり得意じゃないからむずかしかった」「たのしい！」「かわいい！」など感想はいろいろ。



次は保護者にもインタビュー。

「子どもの広場に参加しているお子さんをどう思いますか」の問いかけに、「すごく楽しそうに参加しています。いろいろなことができるので、とてもいい事業だと思います。保護者も楽しんでいます。家に帰ると父親にも作品を見せて、たくさん話をしています」と、なんだか聞いていて、とても嬉しくなりました。

子どもの広場には、たくさんの方が協力しています。今年度協力をお願いしている団体は、「茅ヶ崎郷土会」「茅ヶ崎紙芝居研究会さわやか」「工作会」「松浪人形劇サークル」「子どもの本を読む会」。個人では「草野景子」さん、「中山雅章」さん。

「工作会」メンバーにインタビューしました。

「子どもの広場に関わったきっかけは？」

「小さいころから工作が大好き。物を作るチャンスが少なくなっているので、その機会を与えてあげたい。実際になにかが出来上がったときに達成感を感じている子どもがいる」

「学校では出来ないことをやらせてあげたい。出来た時の喜んでいる子どもの顔を見るのがうれしい。これからはちょっと難しいこともやらせてみたい」など、公民館としてはうれしい限りです。



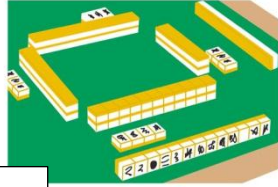
今年度担当になった四家職員も、「子どもたちが自身の五感で楽しみながら学んでいくのがよくわかり、その時の子どもの顔がすごくかわいい！ こうした空間を絶やしてはいけなくと実感。低学年・高学年などにわけた企画も実施したい」と意欲があふれていました。

(川田 昌子)

「すずめ会」



会長 松村 次昭 氏



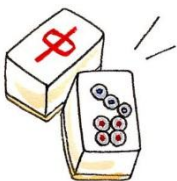
今回は、公民館を利用している団体「すずめ会」さん取材させていただきました。

団体名の由来は麻雀の一文字をとって「すずめ会」と名付けたそうです。

高齢者を対象にした団体で、約20年前、当時の公民館館長の助言を受け、設立しました。当時は麻雀台も手作りです。毎年、総会で役員を選出します。現在の会長の松村さんは、「楽しく、和やかに、勝負にこだわらない。勝っても負けても楽しもう。初心者にも楽しんでもらうために、ベテランは、指導にまわり、声をかけています。

ただ、最近は初心者の方には入会をご遠慮いただいています」と話してくださいました。

会員は現在27名、男女半々くらい。毎月4～5回、午後に活動しています。台を囲む4人は、サイコロを振り決めています。誰と組むか？ サイコロしだい、その日によってかわります。そのため、1台に女性が3名集まると、わいわい・ガヤガヤ・賑やかです。また年2回大会を開催、秋には研修旅行にも行きます。今年の7月大会は、男性をしりめに女性が1、2位を独占、毎回3位までに女性が入っています。



昔は、月間予定表（活動日）、月間成績表（全員）も手書き、手計算で大変でしたが、今はパソコンの普及で大幅に改善されました。

麻雀の醍醐味は、なんといっても、奥深さです。136の牌があり、それらの組み合わせで多種多様の役があり、攻める手が出来上がります。勝敗の行方は、実力はもとより“運とつき”によって大きく左右されます。上手い人が必ず勝つわけではなく、下手な人や初心者でも、いくらでも勝つ人はいます。麻雀歴が長い人でも初心者に負けることがあります。

楽しく麻雀をするには、いかにして相手に振り込ませるか、そのために前段階で仕掛ける、相手のほしい牌を抑えるなど、リーチ麻雀を心掛けています。無理は禁物。これは確率で考えれば答えは明白です。危ない牌に当たる確率は60%以上、自分が上げられる確率は15%以下、相手のつき具合等、瞬時に判断する、運20%・実力80%と思えます。



男たちは懸命に

麻雀には、ストレス解消、老化防止などに効果がありそうです。なぜなら、3人もの敵と台を囲み、相手の手を予測し、自分の手を完成させるために様々な考えを思いめぐらせ“運とつき”を自分の手に呼び込むからです。

とはいっても、麻雀というとギャンブルだ、賭けごとだと悪いイメージが風潮としてあります。それでも麻雀は世界最高のゲームだと思います。年をとっても、いくつになっても社交の場として、友達の広がりにも有意義です。麻雀ほど楽しいものはない！「麻雀をする、しないでは人生観まで変わる」と強調したいと思うのです。

今回の記事は、松村会長と会員の山口さんにいただいた手記を元に書きました。取材を終えて感じたのは、本当に賑やかに楽しそうでした。この記事をお読みいただき、麻雀に興味を持っていただければ、と思います。

（川田 昌子）

公運審だより

公民館運営審議会（略称：公運審）は、公民館館長の求めに応じ、事業の企画・実施などについて調査・検討を行い、住民の意見を公民館の運営に適切に反映させることが主な役割です。

公運審には、幅広い立場から意見を寄せてもらえるよう、学校教育や社会教育の関係者、家庭教育の向上に関する活動をされている団体、学識経験者などから委員が選出されています。

今年度、新たに公民館運営審議会委員に2人の委員が委嘱されました。白石壽明委員が渡辺俊幸委員に代わり、「松浪地区まちから協議会」から推薦されました。また、森井康匡委員が高橋正人委員に代わり、茅ヶ崎中学校長会から推薦されました。お二人に公運審委員としての抱負や公民館について望むことなどを伺いました。

「公運審委員としての抱負と公民館に望むこと」



今年度の公民館運営審議会委員に就任し、最初にしたのは小和田公民館では家庭支援関係や子ども事業、地域交流事業など子どもから高齢者に至るまで幅広いプログラムが数多く用意されていることでした。事業の展開を見ていると事業によっては、参加人数に開きがありますが参加した皆さんが楽しい時間を過ごせているのが分かります。今後はより地域の方々が気楽に参加するよう声掛けするとともに、地域に住む一員として頑張っている公民館を支援していきたいと思っています。（白石 壽明）



「公運審委員として思うこと」

公民館は、社会教育（生涯教育）の拠点としての役割を担っています。学校教育も生涯教育の入り口としての役割を担うという立場から、公運審のメンバーとして参加することで、子どもから大人へのつなぎ役としての役割を果たしていけたらと考えています。（森井 康匡）

茅ヶ崎の社会教育を考える会

「茅ヶ崎の社会教育を考える会」は1975年、市民教養講座に参加した30代の母親たちが、「社会教育施設の公民館がほしい」「公民館があれば保育が出来る」と行動し、1976年4月に「茅ヶ崎市に公民館をつくる会」を発足。1980年、公民館1号館として小和田公民館が誕生。その後、鶴嶺、松林、南湖、香川公民館が開館したので「茅ヶ崎市に公民館をつくる会」は「茅ヶ崎の社会教育を考える会」に改名し、現在に至っている。月に1回、「おしゃべり会」という例会を持つ。

当初、ガリ版刷りで毎月出していた会報「息吹き」は、現在、年4回発行、2015年11月には322号を数えた。2012年8月には、息吹き300号を記念して、まとめ誌『息吹き』と『私の8月15日』を発行した。

2014年10月、藤田秀雄氏（立正大学名誉教授）を講師に、「近現代史と社会教育」の連続学習を開催、明治維新から第2次世界大戦までを10回講座で学習中である。

毎年8月に開催される社会教育研究全国集会は今年55回を数え、盛岡で開催された。当会からは7人が参加。盛岡大会の余韻に浸っていたら、多摩の息吹き購読会員の方から便りが届いた。「どこの団体も高齢化による会員減で休会が相次ぐ中、貴会はいつも前向き、はつらつとしておられ感心しつつ元気をいただいています」と。

2016年は会結成から40周年、心に残る企画を考慮中である。

現在会員は50名ほどで活動している。

（野田 典子）



表紙の写真

公民館主催事業

小和田公民館では、毎年数多くの主催事業を行っています。この写真は事業の一コマです。

公民館のぞきみ隊

小和田公民館には、200を超える団体・サークルの登録があります。どの団体・サークルも楽しそうに活動しています。今回はその一部を、公民館だよりの中で紹介いたしました。

職員紹介

公民館の職員は、正規職員2名・再任用職員1名と社会教育嘱託員4名の計7名です。地域・社会的要請事業を始めとして地域のみなさまに様々な学習機会を提供しています。利用者のみなさまが楽しく、気軽に利用していただけるよう、公民館運営に努めます。どうぞよろしくお願いいたします。



前列左から①尾崎幸雄②米山明夫（館長）③神田一明
後列左から④四家和之⑤加藤真由美⑥染谷直子⑦村松理花
①は再任用職員、②③は正規職員、④⑤⑥⑦は社会教育嘱託員です。

編集後記

- ◎ 平成と西暦に、一瞬戸惑いを覚えるような年齢になりましたが、今年もまたお仲間に入れていただきました。お陰で、いきいきとふるまう小学生たちの姿に接し、嬉しかったです。
有り難うございました。 (青木 君子)
- ◎ 公民館は「郷土民が学びたい時に学び、楽しみたい時に楽しむ施設」として要請された（寺中作雄著『社会教育法解説・公民館の建設』、1995年国土社発行）。茅ヶ崎市の第1号公民館である小和田公民館の建設は「子どもを育てながら私も育ちたい」と、学びの講座に参加した若いお母さんたちの熱望が原動力となったと聞く。この理念がいつまでも続いてほしいと切に願っています。
(佐々木 勝治)
- ◎ 公民館だよりの取材を通して、たくさんの人と出会い、知識を得ることができました。まさに、学びたいときに、楽しみながら学習が出来る公民館にぴったりの事業です。皆様に楽しんでもらえるような、公民館に来たくなるような事業をこれからも取材していきます。公民館だよりをお読みいただき、一緒に編集員をしてみませんか。
(川田 昌子)
- ◎ 講座の取材や記事の編集に興味があったので、参加させていただきました。
先生・職員の神田さん・編集員の皆さんと一緒に、記事の文章や構成を丁寧に添削し、よりよい記事にしていく過程がとても楽しかったです。また、その際にはいろいろなお話が聞けて感心することばかりでした。良い経験をさせていただき、ありがとうございました。 (平野 久美子)
- ◎ 今回は初参加の編集員が2名あり、「公民館だより84号」は、新たな視点により公民館主催事業や公民館利用サークルなどの、多彩な記事を紹介することができました。 (神田 一明)